

一般社団法人 CEPA ジャパン  
定時社員総会

## 議案書

日時:2018年6月22日(金曜日)18時30分~19時30分

会場:ちよだプラットフォームスクエア 503 会議室

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-21

- ・JR 神田駅西口から出世不動通り徒歩 12分 <http://yamori.jp/access/>
- ・地下鉄 ■竹橋駅(東西線)3b KKR ホテル東京玄関前出口より徒歩 2分
- 神保町駅(三田線・新宿線・半蔵門線)A9 出口より徒歩 7分
- 大手町駅(三田線・千代田線・半蔵門線・丸の内線)C2b 出口より徒歩 8分
- 小川町駅(新宿線・千代田線)B7 出口より徒歩 8分

○開会 代表理事あいさつ

第1部 総会

1. 総会開会の辞
  2. 定足数の確認
  3. 議長選出
  4. 議案審議
- 第1号議案 2017年度 事業・活動報告  
第2号議案 2017年度 収支決算報告  
第3号議案 2018年度 事業・活動計画  
第4号議案 2018年度 予算計画
5. 議長退任

○閉会

第2部 交流会 19時30分~21時30分

会場: 結ぶ食房「しまゆし」(※総会の会場と同じ建物 1F)

ちよだプラットフォームスクエア【1F】 TEL 03-5259-8051

会費: 4,000円

## 第1号議案 2017年度 事業・活動報告

### 1. 事業展開方針

第8期は、次のように位置付けて活動を展開した。

#### 【事業展開方針】 ■第2ステージは上昇へ

2010年のCEPAジャパン創設から第8期を迎える本年度は、法人としての基礎固めであった「第1ステージ」から、普及拡大を加速度的に高めていく「第2ステージ」の仕上げに入る。生物多様性を入り口にした自然共生な暮らしの気づきから、自然共生な暮らし、「いきものぐらし」のデザインへ当法人らしい事業展開を形作っていく年と位置づける。その活動のキーワードとして「いきものぐらし」を掲げ、「5つのアクション」に基づいて事業展開する。

#### <事業内容>

2017年度はCEPAジャパンの「第2ステージ」の仕上げとしての一年として、以下の事業を展開した。

#### <1> CEPAジャパンの組織基盤強化

##### 1. 事務局体制の強化

当法人への期待に応えるために、「地球と未来の環境基金」のご協力で設置した事務局は、4年目を迎え、生物多様性アクション大賞の事務局としても活動の中心となった。また、外部の公認会計士のご指導により財務基盤強化が一層進んだ。

##### 2. 支援者組織化

会員数は、個人・法人あわせて、21名であり、引き続き、会員拡大に努力する。

2017年3月31日現在の会員数は以下のとおりである。

運営会員 16名      賛同会員(個人) 4名      賛同会員(団体) 1名      賛助会員 0名

##### 3. 広報

当法人の基幹事業として引き続き「5 ACTIONS」に関するツールの開発を行った。

#### 3-1. CEPAジャパンのオフィシャルサイト

2016年にリニューアルしたサイトで、さらに国内の生物多様性の事例紹介などの情報発信に努めた。特にトップページに数多くの「生物多様性・的な」サイトを紹介して、関心のある方にとってのポータルサイト化を目指した。

<http://cepajapan.org>

#### 3-2. 生物多様性アクション大賞の運営

生物多様性の先進事例の収集を図るため、応募についての情報発信を行い、各賞の授賞式を開催。大賞受賞者は自然保護関係者やCSR担当者・一般来場者が多く集まるエコプロダクト展でプレゼンテーション説明を開催。

<http://5actions.jp/award/>

#### 3-3. 「いきものぐらし」のサイト

生物多様性に貢献している企業事例などを紹介して、一般消費者が選択可能な情報を整備。一昨年度開設以来、CEPAに関するホームページを充実するとともに、英文対応のサイトも充実を図り、CEPAに関する情報発信に努めた。

<http://5actions.jp> 「英文対応のサイト」 <http://5actions.jp/en/>

### 3-4. 紹介リーフレットの発行

身近な生物多様性の事例について感じてもらえるように「CEPA さんぽリーフレット」を作成して観察会で配ったりして、街中歩きなどで身近な自然とふれあう際のガイドツールとして活用を図った。

<http://cepajapan.org/column/2032/>

### 3-5. 国内の事例収集

CEPA ジャパンの活動について、国内の事例収集を中心に、情報発信に努めた。

<https://www.facebook.com/groups/green.forum.asia/>

### 3-6. CEPA さんぽ

愛知目標 1 達成のため、関係者と協働し、「容易な言葉」で「優良事例をツール化」して展開し、「日常の行動で恒に生物多様性に配慮」できるための行動変容を促すことを目的に「CEPA さんぽ」ツールとして、自然観察会などの帰り道に、生物多様性にあふれた周囲の自然などに気づききっかけとなるツールを作成した。

### 3-7. いろとりどりサイト

生物多様性に配慮した食品などを選択して購入できるように、情報の紹介ポータルサイトの構築を目指した。

<http://iro-toridori.info/>

### 3-8. facebook ページ

SNS での情報発信に努めた。

和文 <http://www.facebook.com/cepajapan.org> 英文 <http://www.facebook.com/CepaJapan>

## 4. 総会・理事会の開催

### 【総会】

2017 年度の通常総会は 2017 年 5 月 22 日(月)に、ちよだプラットフォームスクエア会議室で開催した。2016 年度事業報告と決算を承認、2017 年度計画と予算について決議、新任期の理事役員が決定した。

なお、総会終了後は、会場を 1F の「しまゆし」に移して、第2部として生物多様性保全に努力している内外の団体に呼び掛け交流会パーティとして開催した。2013 年度からの同様の形式での開催で「いきものぐらし」を考える日として、実施した。

### 【理事会】

また、2017 年度の理事会は以下の 4 回を開催した。

#### ●2017 年 4 月 24 日理事会(ファンドレックス会議室)

総会の審議に付与するべき事項について審議、総会議案として上程した。

・2016 年事業報告・決算、2017 年事業計画・予算

・合わせて今年度の事業計画の運営体制に関することを審議した

#### ●2017 年 11 月 27 日理事会(スペースポート会議室)

今年度の事業計画の運営体制に関することを協議した。特に地球環境基金に関すること、直前に迫っ

た生物多様性アクション大賞の表彰式運営に関すること、および下半期の運営に関することを協議した。ジャパニーズエコロジーとグリーンコンシューマー普及啓発から行動変容へ。CEPA 活動のゴール設定とプロセスのモデル化、SDGs 時代への活動の継承などが話し合われた。

## 5.その他

財政基盤強化をはかり、特に自主財源の獲得に注力した。特に生物多様性アクション大賞は年間を通じての取り組みになるため、企業との連携を深めた。また組織基盤安定のため、地球環境基金からの助成を受けて、生物多様性の普及啓発を行った。

### <2> 普及啓発事業

#### 1.生物多様性アクション大賞の開催

##### 1-1.応募状況と受賞団体

生物多様性アクション大賞は「国連生物多様性の 10 年」の日本における広報活動の一環として 2013 年にスタートし、今年度は 5 回目を迎えた。特に今年から今年度から大賞に代えて環境大臣賞、農林水産大臣賞が新たに設置され、授賞式当日に行われるは 5 部門優秀賞受賞者によるプレゼンテーションを経て大臣賞が選定された。

生物多様性アクション大賞は、生物多様性の主流化を目指して、「国連生物多様性の 10 年日本委員会」が推進する「MY 行動宣言5つのアクション」に基づき、全国各地で行われている個人・団体の活動を表彰するもので「たべよう部門」、「ふれよう部門」、「つたえよう部門」、「まもろう部門」、「えらぼう部門」の5部門で優秀賞を選定する。また 2015 年に国連加盟国全会一致で採択された SDGs (2030 年までの持続可能な開発目標) に貢献する団体を表彰する SDGs 賞も新設された。2015 年度より国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J) の主催事業となったが、CEPA ジャパンが主導して、引き続き事務局の機能を担った。今年度は全国から総数 116 の優れた活動が応募され、一次審査、二次審査を経て、各賞の発表をウェブ上で行った。12 月 8 日の受賞式典で環境大臣賞、農林水産大臣賞が表彰された。

#### ◆審査結果

<http://5actions.jp/award2017/result.html>

#### [環境大臣賞]

【まもろう部門】株式会社加藤建設(愛知県海部郡)

エコミーティング～建設業における環境活動～

#### [農林水産大臣賞]

【つたえよう部門】北九州・魚部(福岡県北九州市)

魚部～人物多様性をもとに、生物多様性を伝える活動

#### [優秀賞]

【たべよう部門】石巻市立大原小学校(宮城県石巻市)

子供たちによるふるさとづくり 「牡蠣養殖体験」

【ふれよう部門】とくしま生物多様性リーダーチーム(徳島県徳島市)

勝浦川流域フィールド講座

【えらぼう部門】特定非営利活動法人つくしん棒(岐阜県郡上市)

YUMEITAプロジェクト

[特別賞]

【復興支援賞】気仙沼市立大谷中学校(宮城県気仙沼市)

大谷ハチドリ計画

【グリーンウェイブ賞】特定非営利活動法人三嶺の自然を守る会(徳島県徳島市)

三嶺の豊かな森を守る活動

【セブン-イレブン記念財団賞】兵庫県立御影高等学校 環境科学部生物班(兵庫県神戸市)

六甲山のキノコの多様性調査

【SDGs 賞】渋川小学校・滋賀の郷土料理学習実行委員会(滋賀県草津市)

「食べることで、琵琶湖を守る」滋賀の郷土料理学習

[審査委員賞](団体名 50 音順)

魚津三太郎倶楽部(富山県魚津市)『おつかいもん魚津』

特定非営利活動法人大杉谷自然学校(三重県大台町)『伝統漁法がつなぐ宮川の未来』

一般社団法人くりはらツーリズムネットワーク(宮城県栗原市)『足元の価値を覗つける体験プログラム』

特定非営利活動法人田んぼ(宮城県大崎市)『3・9・4で持続可能な田んぼの評価』

みさを大豆研究班(熊本県阿蘇市)『みさを大豆復活プロジェクト』

山梨県立吉田高等学校放送部×富士山アウトドアミュージアム(山梨県南都留郡)『富士山麓ロードキル撲滅プロジェクト』

## 1-2.授賞式

【日時】2017年12月8日(金)13:30-17:00 【場所】東京ビックサイト 会議棟 1階 101会議室

授賞式会場となる東京ビックサイトでは同期間に「エコプロ 2017 環境とエネルギーの未来展」が開催されていた。その会場に、東北から九州まで日本各地から受賞者が集まり、授賞式が開催された。受賞団体には審査委員や協賛企業のみなさまが務めるプレゼンター(左端)から表彰状と目録が贈呈された。

授賞式の後、特別賞、審査委員賞の受賞団体から、3枚の写真を使って3分間で活動を紹介するスリーピーストーク形式でのプレゼンテーションがあり、それぞれの地域に根ざしたバリエーションある活動内容の豊かさに今年も多くの来場者が感銘を受けた。

そして、5部門優秀賞の受賞者からは自由形式で5分間の発表。このプレゼンテーションが最終審査の対象となり、農林水産大臣賞として1団体、環境大臣賞として1団体が選ばれた。

審査結果の発表、表彰に続いて、審査委員長より「とても素晴らしい応募をたくさんいただいたので、審査委員としては悩みながら真剣で白熱した議論を続け、各賞を受賞した団体が選ばれた」という選

考の経緯が紹介された。

◆授賞式レポート

<http://5actions.jp/award2017/ceremony.html>

1-3.エコプロ 2017 での発表

授賞式の翌日、12月9日(土)にエコプロ 2017 環境とエネルギーの未来展会場に特設された「SDGs ステージ」で、生物多様性アクション大賞アンバサダーのさかなクンと共演。今年は 300 名入る会場と広くなったが、立ち見も出るほどの大盛況となった。さかなクンによる「東京湾の旬のお魚を食べる」お魚クイズは大盛り上がりになり、続いて環境大臣賞を受賞した、株式会社加藤建設の久坂耕さん、農林水産大臣賞を受賞した北九州・魚部の上野由里さんに活動内容を発表していただいた。後半はさかなクンと一緒に SDGs って何だろう？ 生物多様性の関わりは？ をテーマに、楽しくトーク。来場者の皆さんには SDGs と生物多様性を分かりやすく理解してらえるステージになった。

【日時】2017 年 12 月 9 日(土) 13:30-14:15

【場所】東京ビックサイト 第 2 ホール「イベントステージ」

【テーマ】生物多様性と SDGs について、さかなクンと考えてみよう

2.普及啓発

2-1.. 自然観察会の開催

自然観察指導員東京連絡会の協力を得て、自然観察会を開催できた。合計約 270 人の方に都会の中での生物多様性を感じていただくことができた。

●2017 年 5 月 21 日(日)国連生物多様性の日記念「自然観察会」参加者 150 名 【場所】日比谷公園

[http://cepajapan.org/member\\_blog/2038/](http://cepajapan.org/member_blog/2038/)

●2017 年 8 月 2 日(木)「セミの羽化観察会」参加者 70 名 【場所】日比谷公園

[http://cepajapan.org/member\\_blog/2054/](http://cepajapan.org/member_blog/2054/)

3.その他

3-1.CEPA ジャパンとして、以下の事業に共催・後援・協力名義の使用を許可した。

【共催】

自然観察指導員東京連絡会(NACOT)「みどりの自然観察会」

【後援】

【協力】

3-2.CEPA ジャパンとして、以下の会合に参画・提言を行った。

■[事例収集]

- ・いろいろどりを構成するための事例収集などをするため、糸島、富士山、などを訪問。
- ・グリーンレジリエンスで、海洋保全の事例収集のためにシンガポール視察。
- ・海洋保全の事例収集のために、大阪、宮古島などを訪問、情報収集と他団体との連携を図った。

## ■[国内事業]

### ・南三陸町プロジェクト

南三陸町は牡蠣、ぎんざけ、ホタケ、ホヤ、ワカメ等、豊富な水産資源を有している。町の豊かな森里川海との関係性を踏まえて、地域資源の良さを生かしたプロモーションの構築支援を行った。地域での取り組みであり、行政・地域住民・関係者との連携を強化し、企画の立案・実施において協働した。

### ・地域 CEPA 拠点の展開拡大に向けて

日本固有の生態系の研究を活かした生物多様性の主流化を加速させ、生物多様性と共生するレジリエンスの高い地域づくりの拡大を図るため、和歌山県で南方熊楠の関係者等と、生物多様性の観点から普及啓発の協議を重ね、次年度には事業実施を決定する運びとなった。熊楠をコンテンツとして地域の図書館などを CEPA 拠点として全国展開を進めていきたい。

## ■参画

- ・公益財団法人日本自然保護協会(NACS-J)に団体会員として加盟
- ・SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワークに参加
- ・生物多様性民間参加パートナーシップへ参加
- ・国連生物多様性の10年日本委員会の委員、運営部会のメンバー
- ・生物多様性ちば企業ネットワークに支援メンバーとして参画

## 第2号議案 2017年度収支決算案

**正味財産増減計算書**

平成29年4月1日～平成30年3月31日

一般会計		(単位:円)		
科 目	当年	前年	増減	
<b>I 一般正味財産増減の部</b>				
<b>1 経常増減の部</b>				
<b>(1) 経常収益</b>				
① 受取会費	[ 126,000 ]	[ 174,000 ]	[	△ 48,000 ]
受 取 会 費	126,000	174,000		△ 48,000
② 事業収益	[ 5,701,900 ]	[ 9,857,251 ]	[	△ 4,155,351 ]
受 託 事 業 収 益	5,701,900	9,857,251		△ 4,155,351
③ 受取助成金	[ 8,604,382 ]	[ 4,315,000 ]	[	4,289,382 ]
受 取 助 成 金	8,604,382	4,315,000		4,289,382
④ 受取寄付金	[ 2,200 ]	[ 429,970 ]	[	△ 427,770 ]
受 取 寄 付 金	2,200	429,970		△ 427,770
⑤ 雑収益	[ 71,014 ]	[ 67,006 ]	[	4,008 ]
受 取 利 息	14	6		8
そ の 他 益	71,000	67,000		4,000
<b>経 常 収 益 計</b>	<b>14,505,496</b>	<b>14,843,227</b>		<b>△ 337,731</b>
<b>(2) 経常費用</b>				
① 事業費	[ 12,361,529 ]	[ 14,381,132 ]	[	△ 2,019,603 ]
外 注 費	6,158,600	7,627,384		△ 1,468,784
荷 造 運 賃	72,043	9,504		62,539
活 動 支 援 費	950,000	700,000		250,000
広 告 宣 伝 費	1,141,730	1,831,150		△ 689,420
会 議 費	165,338	129,600		35,738
旅 費 交 通 費	2,887,260	3,293,051		△ 405,791
通 信 費	24,127	31,614		△ 7,487
消 耗 品 費	77,214	59,250		17,964
諸 会 費	27,000	126,635		△ 99,635
支 払 手 数 料	25,866	27,324		△ 1,458
支 払 報 酬 料	540,000	540,000		0
賃 借 料	237,338	5,620		231,718
租 税 公 課 費	1,200	0		1,200
雑 費	53,813	0		53,813
② 管 理 費	[ 1,977,232 ]	[ 2,052,400 ]	[	△ 75,168 ]
外 注 費	1,814,400	1,814,400		0
荷 造 運 賃	3,048	3,054		△ 6
交 際 費	0	6,588		△ 6,588
旅 費 交 通 費	0	9,351		△ 9,351
通 信 費	55,342	69,964		△ 14,622
消 耗 品 費	0	15,543		△ 15,543
支 払 手 数 料	101,242	100,000		1,242
賃 借 料	3,200	33,100		△ 29,900
租 税 公 課 費	0	400		△ 400
<b>経 常 費 用 計</b>	<b>14,338,761</b>	<b>16,433,532</b>		<b>△ 2,094,771</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>166,735</b>	<b>△ 1,590,305</b>		<b>1,757,040</b>



<b>2 経常外増減の部</b>			
(1) 経常外収益	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	166,735	△ 1,590,305	1,757,040
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	96,735	△ 1,660,305	1,757,040
一般正味財産期首残高	△ 1,852,591	△ 192,286	△ 1,660,305
一般正味財産期末残高	△ 1,755,856	△ 1,852,591	96,735
<b>II 正味財産期末残高</b>	△ 1,755,856	△ 1,852,591	96,735

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 消費税等の会計処理

税込方式

## 貸借対照表

平成30年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年	前 年	増 減
<b>I 資産の部</b>			
<b>1 流動資産</b>			
現 金 預 金	117,034	311,948	△ 194,914
未 収 入 金	0	708,351	△ 708,351
<b>流 動 資 産 合 計</b>	<b>117,034</b>	<b>1,020,299</b>	<b>△ 903,265</b>
<b>2 固定資産</b>			
<b>固 定 資 産 合 計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>資 産 合 計</b>	<b>117,034</b>	<b>1,020,299</b>	<b>△ 903,265</b>
<b>II 負債の部</b>			
<b>1 流動負債</b>			
短 期 借 入 金	1,802,890	2,802,890	△ 1,000,000
未 払 法 人 税 等	70,000	70,000	0
<b>流 動 負 債 合 計</b>	<b>1,872,890</b>	<b>2,872,890</b>	<b>△ 1,000,000</b>
<b>2 固定負債</b>			
<b>固 定 負 債 合 計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>負 債 合 計</b>	<b>1,872,890</b>	<b>2,872,890</b>	<b>△ 1,000,000</b>
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1 一般正味財産</b>	<b>△ 1,755,856</b>	<b>△ 1,852,591</b>	<b>96,735</b>
<b>2 指定正味財産</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>正味財産合計</b>	<b>△ 1,755,856</b>	<b>△ 1,852,591</b>	<b>96,735</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>117,034</b>	<b>1,020,299</b>	<b>△ 903,265</b>

## 財 産 目 録

平成30年3月31日現在

(単位：円)

内 訳	金 額		
<b>I 資産の部</b>			
<b>1 流動資産</b>			
普通預金	[ 117,034 ]		
三菱東京UFJ銀行横浜支店	117,034		
<b>流動資産合計</b>		117,034	
<b>2 固定資産</b>			
	[ 0 ]		
<b>固定資産合計</b>		0	
<b>資産合計</b>			117,034
<b>II 負債の部</b>			
<b>1 流動負債</b>			
短期借入金	[ 1,802,890 ]		
運転資金借入	1,802,890		
未払法人税等	[ 70,000 ]		
<b>流動負債合計</b>		1,872,890	
<b>2 固定負債</b>			
	[ 0 ]		
<b>固定負債合計</b>		0	
<b>負債合計</b>			1,872,890
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>正味財産</b>			△ 1,755,856

## 事業別 正味財産増減計算書

平成29年4月1日～平成30年3月31日

一般会計

(単位：円)

科 目	法人合計	公益事業	収益事業
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1 経常増減の部</b>			
<b>(1) 経常収益</b>			
① 受取会費	[ 126,000 ]	[ 126,000 ]	[ 0 ]
受 取 会 費	126,000	126,000	0
② 事業収益	[ 5,701,900 ]	[ 0 ]	[ 5,701,900 ]
受 託 事 業 収 益	5,701,900	0	5,701,900
③ 受取助成金	[ 8,604,382 ]	[ 8,604,382 ]	[ 0 ]
受 取 助 成 金	8,604,382	8,604,382	0
④ 受取寄付金	[ 2,200 ]	[ 2,200 ]	[ 0 ]
受 取 寄 付 金	2,200	2,200	0
⑤ 雑収益	[ 71,014 ]	[ 71,014 ]	[ 0 ]
受 取 利 息	14	14	0
そ の 他	71,000	71,000	0
<b>経 常 収 益 計</b>	<b>14,505,496</b>	<b>8,803,596</b>	<b>5,701,900</b>
<b>(2) 経常費用</b>			
① 事業費	[ 12,361,529 ]	[ 7,796,918 ]	[ 4,564,611 ]
外 注 費	6,158,600	3,695,160	2,463,440
荷 造 運 賃	72,043	43,226	28,817
活 動 支 援 金	950,000	950,000	0
広 告 宣 伝 費	1,141,730	685,038	456,692
会 議 費	165,338	99,203	66,135
旅 費 交 通 費	2,887,260	1,732,356	1,154,904
通 信 費	24,127	14,476	9,651
消 耗 品 費	77,214	46,328	30,886
諸 会 費	27,000	16,200	10,800
支 払 手 数 料	25,866	15,520	10,346
支 払 報 酬 料	540,000	324,000	216,000
賃 借 料	237,338	142,403	94,935
租 税 公 課 費	1,200	720	480
雑 費	53,813	32,288	21,525
② 管理費	[ 1,977,232 ]	[ 1,186,339 ]	[ 790,893 ]
外 注 費	1,814,400	1,088,640	725,760
荷 造 運 賃	3,048	1,829	1,219
通 信 費	55,342	33,205	22,137
支 払 手 数 料	101,242	60,745	40,497
賃 借 料	3,200	1,920	1,280
<b>経 常 費 用 計</b>	<b>14,338,761</b>	<b>8,983,257</b>	<b>5,355,504</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>166,735</b>	<b>△ 179,661</b>	<b>346,396</b>

<b>2 経常外増減の部</b>			
(1) 経常外収益	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
<b>経常外収益計</b>	0	0	0
(2) 経常外費用	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
<b>経常外費用計</b>	0	0	0
<b>当期経常外増減額</b>	0	0	0
<b>税引前当期一般正味財産増減額</b>	166,735	△ 179,661	346,396
<b>法人税、住民税及び事業税</b>	70,000	0	70,000
<b>当期一般正味財産増減額</b>	96,735	△ 179,661	276,396
<b>一般正味財産期首残高</b>	△ 1,852,591		
<b>一般正味財産期末残高</b>	△ 1,755,856		
<b>II 正味財産期末残高</b>	△ 1,755,856		

(注) 事業費のうち各事業に共通して発生するもの及び管理費は、受取助成金と受託事業収益の割合(公益60%、収益40%)により各事業に配分した。

## 監査報告書

一般社団法人 CEPA ジャパン  
代表理事 川廷 昌弘 殿

私は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

### 1 監査の方法及びその内容

監事は、理事等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

### 2 監査意見

#### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

#### (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

平成 30 年 5 月 29 日

一般社団法人 CEPA ジャパン

監事 浅見 英 (印)

監事 星野 智子 (印)

## 第3号議案 第9期(2018年度)事業・活動計画

### 【事業展開方針】 ■SDGs 時代にむけて

2010年のCEPAジャパン創設から第9期を迎える本年度は、法人としての基礎固めであった「第1ステージ」から、普及拡大を加速的に高めていく「第2ステージ」の段階を経て、2020年の最終年に向けて、さらに2030年SDGsの目標年に向けてパワーアップしていく。生物多様性を入り口にした自然共生な暮らしの気づきから、自然共生な暮らし、「いきもの暮らし」のデザインへ当法人らしい事業展開を形作っていく年と位置づける。その活動のキーワードとして「いきもの暮らし」を掲げ、「5つのアクション」に基づいて事業展開を行っていく。

### 【今年度の具体的な事業】

#### 1. 生物多様性アクション大賞 2018

7月3日に募集開始。9月3日応募締切。表彰式典を12月7日予定、また12月8日大賞のプレゼンをエコプロ展で開催。引き続き環境省、農林水産省と連携して、国家規模のアワードとして確立させていく。

◆主な事業内容:選考事務局運営、ウェブサイトによる情報発信、贈呈式記念イベント、など

#### 2. 体感型の普及啓発イベント

「いきもの暮らし」を共有し実感できるようなイベント、5つのアクションの事例収集など、様々な形態を検討。都市生活の中で、もっと身近に、生物多様性を感じる事業など展開。

◆主な事業内容:体感型イベント(自然観察会、B センスフォーラムなどと連携)、ネットワーク自然観察会など

#### 3. 広報

引き続き、南方熊楠をコンテンツにして、全国の図書館などを「CEPA 拠点」として継続して全国連携を試みる。さらに情報発信に努め、「いきもの暮らし」サイトでの全国各地から「5つのアクション」に基づいた事例収集を行う。

◆主な事業内容:ウェブサイト運営

#### 4. 組織運営

当法人への期待に応えるために、年々充実した財務の更なる安定化を図り、継続的な事務局体制を確立させる。

◆主な事業内容:事務局業務の拡充、事業収入の拡大など

#### 5. 他団体との連携・協働

日本におけるCEPA活動の中核を担う法人として、愛知ターゲット達成に向けて、全てのセクターとの連携を図り、これまでにない広報、教育、普及啓発の施策を創発する。

◆主な事業内容:MY 行動宣言5つのアクション事務局、IUCN-J、CEPA-IAC、UNDB との連携等

第4号議案 2018 年度予算案

事業所名：CEPA ジ

ャパン

期間：平成 30 年 4 月 1 日,平成 31 年 3 月 31 日

勘定科目	8 期予算	9 期予算	増減率
[経常収益]			
受取会費	300,000	200,000	67%
受託事業収益	9,000,000	5,700,000	71%
受取助成金	4,000,000	8,700,000	218%
受取寄付金	200,000	200,000	100%
雑収益	0	0	#DIV/0!
経常収益合計	13,500,000	14,800,000	118%
[経常費用]			
[事業費]			
外注費(事)	3,500,000	6,000,000	333%
荷造運賃(事)	10,000	80,000	800%
活動支援金(事)	700,000	950,000	136%
広告宣伝費(事)	2,000,000	1,200,000	40%
会議費(事)	300,000	170,000	57%
旅費交通費(事)	3,000,000	3,000,000	120%
通信費(事)	60,000	30,000	33%
消耗品費(事)	70,000	80,000	114%
新聞図書費(事)	50,000	30,000	30%
諸会費(事)	150,000	30,000	150%
支払手数料(事)	30,000	540,000	1800%
支払報酬料(事)	600,000	240,000	40%
賃借料(事)	300,000	1,200	0%
保険料(事)	10,000	60,000	600%
事業費計	10,780,000	12,411,200	130%
[管理費]			
外注費(管)	2,000,000	2,000,000	100%
荷造運賃(管)	30,000	30,000	100%
会議費(管)	60,000	30,000	50%
旅費交通費(管)	30,000	30,000	100%
通信費(管)	70,000	70,000	175%
消耗品費(管)	70,000	30,000	43%
支払手数料(管)	150,000	100,000	67%
賃借料(管)		30000	#DIV/0!



租税公課（管）	60,000	60,000	100%
管理費計	2,470,000	2,380,000	94%
経常費用合計	13,250,000	14,791,200	123%
当期経常増減額	250,000	8,800	2%

[参考資料]

■シンボル

A

もっと身近に、生物多様性。

B

もっと身近に、  
生物多様性。



C



[CEPA ジャパンのミッション]

- 1、愛知目標達成のため、生物多様性の普及啓発を推進し  
全国の取り組みを紹介する受け皿となる
- 2、地域の個性を守るため、各自治体や企業、市民と  
生物多様性の実施計画を推進する
- 3、持続可能な生産と消費と、Green Economy の理解促進を図り  
新しい取り組みを創出する

[CEPA ジャパンのビジョン]

生物多様性が豊かであり、災害大国でもある国土に生きる市民として、COP10 で採択された「愛知ターゲット」達成のため、日本の市民社会が提案して国連総会で採択された「国連生物多様性の10年」を推進します。

そのために、日本の伝承文化や CEPA プログラムを、生物多様性を理解し自然と共生する心豊かな暮らしを理解できるツールとして活用します。

そして、持続可能な社会の実現を加速させる誰もが学びたい「アース・コミュニケーション・センター」を、都市の中心部に世界に通用するエデュケーションセンターとして建設することも目指します。

さらに、先住民族グループ(IIFB)ともグローバルな活動をしながら、2050 年には地球上に存在する社会すべてが自然資源のバランスに配慮した幸せな社会となっていることを目指します。